

出 会 い ふ れ あ い 助 け 合 い

あべの

NO.
99

サロン・あべの八月の出会い

高気温の記録更新が続くカラカラ天気の平成六年八月七日(日)午後三時〜九時、府立芸芸高校グラウンドに於て、第21回あべのカートナーが開催され、その催しものコーナーの一つである区民参加出店のなんでも市通りにハサロン・あべのVもバザー店「さろん亭」を開いた。

九回目の店開きともなると、品物の置かれる場所も定位置が決まってきたっており、それぞれの場所に積まれていく。華やかな色合いのタオル・シャツ類は人目を引きやすい人通りの多い正面の場所に。食器・鍋・雑貨等台所関係類は、腰を落ち着けて選んでいただけるよう人通りから離れた所。目玉商



品のばら売り石鹸は、どこからでも目につく角の位置に。そして、オリジナルサロングッズは、一等場所であるテーブルの上に。

毎年のことながら、お客さんは商品を並べる間も、立ち止まられて熱心に品物選びをされる。販売時間が三時からと決められているので、販売をお断りするが大変。

いよいよ規制時間が過ぎて販売に入ると、「さろん亭」は売り手と買い手の声飛びかい、戦場のようにな忙しさになる。それぞれの持ち場で、お客さんとの応対に追われて、お顔なじみの方が来て下さってもゆっくりお話もできず、笑顔の交換だけで過ぎてしまい、残念な思いも少なからず味わうこともある。しかし、そのような中でも、

「年に一度の出会いですね。がんばってね」

「サロングッズを今年も、もらいに来きましたよ」

「〇〇さんの顔が、見えへんけどないしたん。元気にしてる？」
等々、優しいことば、嬉しいことばの数々を聞かせていただいた。時間が過ぎてテントの陰がずれていることに気がつく頃、ホッと一息ついて辺りを見回すと、各販売担当の委員方は汗をしたらせながら、声を交わしあい商品の整理に余念がない。客足というのは不思議なもので、忙しい時間はいつときになる。そのかわり、客足の途絶える時間もわずかにある。その間に、中央の舞台で練り広げられている様々な催し物のアナウンスや、音楽が聞こえてきて、

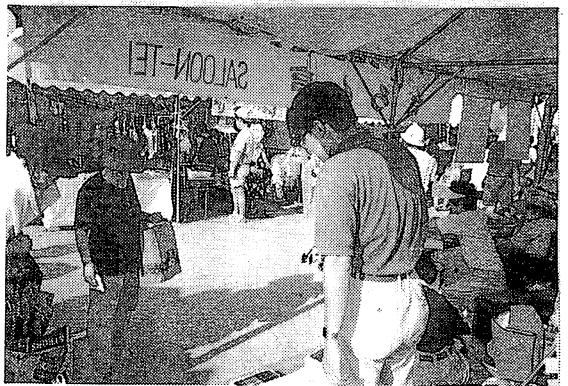
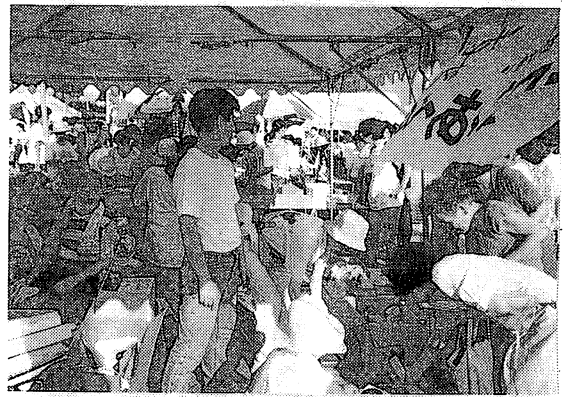
お祭りの雰囲気会場いっぱい広がっていることを感じる。

五時から、「さろん亭」恒例の半額市が始まる。と、なるまばらだった客足も多くなり、呼び込みの声も一段とはりきり、品物の数も目に見えて減っていく。

会場は、九時までとなっているが、「さろん亭」は午後六時閉店とさせていただいた。夕涼みがてら来て下さった方には、申し訳なかったが七時に解散。

今年も多くの方々に、お世話になりました。商品を提供して下さい方、その品物を運んで下さる方、値段付けを手伝って下さった方、販売のお手伝いに駆けつけて下さった方、「さろん亭」を訪ねて下さった方、本当にありがとうございます。お陰様で、「さろん亭」は今年も盛況に店開きができ、多くの方々との出会い・ふれあいの輪を広げることが出来ました。

「さろん亭」手伝い十六名
(富田慶子)



ありがとうございます ございました

八月七日(日)に開催されたあべのカーニバルのなんでも市通りに開店致しました「さろん亭」は、多くの皆様方にご協力、ご支援を賜り、盛大に店開きが出来ました

こと、誠にありがたく感謝申し上げます。お陰様で、多くの出会い・ふれあいを体験させていただく中で、収益を上げることが出来ました。これらのご厚志を基に、今後のサロン活動を充実させていきたいと考えていますので、今後ともどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

△サロン・あべのV運営委員会
○さろん亭売り上げ 金二二二、九九五円

サロン亭

□ 酷暑も楽しい

「暑い」と言いた
いほどの熱帯気温と
なった今年の夏は、
「サロン亭」の商品
の売れ筋に、ちよつ
と変わった面が見ら
れました。

と言いますのは、例年でしたらハンカチ
・タオルのばら売りコーナーでは、他の品
物を買ったついでに、こちらの品も手にと
って気にいったものがあると買っていかれ
るところが、今年はこのパターンでした。

「ハンカチ、ちょうだい。柄？なんでもい
いわ」

「木綿のハンカチないの？」

「こんな上等なハンカチでなくてもいいね

んけどな」

等々、一枚買いのお客さんが多くて、婦人
物、紳士物にこだわらず、あつという間に
売り切れました。

そして、次はタオルのばら売り。これま
た飛ぶように売れました。いつもなら、年
配の方が雑巾にするからとか、病人が居て
必要だからと、吟味してまとめ買いされる
ことが多かったのですが、今回は、

「薄手のタオル、ない？」

「なんでも、ええわ。一本ちょうだい」

「ハンカチじゃ、まにあえへんのよ」
等々、皆さん、汗だくで会場回りもお買い
物も大変だったようです。

お陰様で、「サロン亭」のタオル・ハン

カチ類は、全て完売いたしました。酷暑の
おかげ？です。

(T)

♥ 「サロン亭」にご協力いただいた皆様

赤田寿子、赤松菊間、旭 純子、

安達尚子、穴吹辰夫、阿倍野肢体障害者

協会自動車クラブ(赤松憲二・竹下秀樹

・吉田 毅)、石田花子、石田 律・元

伊勢村和子、上平幸雄、大北清子、

大高澄子、大塚一枝、岡本登志子、

加賀谷 正、柿岡 緑、笠原美和子、

金岡千恵、河合恵子、木寺ちよ子、

北井シゲ子、蔵田、小西京子、阪口悦子、

皿谷千秋、杉山篤枝、秀 翠、

大丸久美子、高尾澄男、竹村定子、

田中マサエ、辻本輝子、津村和泉、

津村けい子、土屋由美子、土井一典、

手島八重子、富田慶子・十一・御喜代・

実幸、永井美智子、中岡久美子、

中野君江 中村ヒサ子、中原友喜、

南光龍平・仁子 長谷川マキエ、

原田 仁・友弥・博子、東谷和代、

藤井さゆり、町野旬子、松本 孝、

松本克代、松森美智子、丸山寿美子、

柳生幸子、山田絹代、倭 満也子、

山村貴司、山本篤江、山本敏子、

山根匡子、吉岡知美、吉原和郎、

若林幸子、和田保子、

(敬称略)

□ 出会い

毎日、暑い日が続いております。いつもサロン紙をありがとうございます。今年のカーニバル「さろん亭」に参加出来なくて本当に残念でした。

のCMで小林駿美が言っている「やっぱりくつきりまったりどつきりはつきりゆっくりむっちりすつきりざつきりてつきりぱつきりぼつきりめつきりしっとりうっとりさっぱりな、絶妙なブレンドってどこかしらね」という速くて長いセリフが思い出されてきて、原稿どころではなくなった。いよいよ眠れない、書けない。

皆様、お疲れになられた事と思います。八尾に住んでいます私の姉にサロンのお話を時々しております。それで、私の代わりに「さろん亭」へ行って買物をして来てくれました。大変なにぎわいで、皆さんの活動に感心しておりました。

十六茶でもの中で、頭くつきりさっぱりはつきりしたところでゆっくりに眠って原稿はあしたにしたら。わかった？

ウツス。

石田 律

残暑きびしい頃、お体大切になさって下さい。
木村 圭 子

□ お茶をにごす

今年の夏は格別暑い。そうでなくても暑くて眠れないのに、原稿のことが気になる、ますます眠れなくなってしまう。

そんなある晩、何をどこでどうちがえたのか、アサヒ十六茶



□ 一筆箋でふれあう人

連日、猛暑・酷暑・熱暑が新聞記事になり、とうとう砂漠なみ・サウナなみとまで書かれるような暑さのなかで「さろん亭」が店開き、なみはずれた気候以外は、客足、盛り上り、売れ筋などおおむね並年どおりで特に変わりない。

大いなる変わりがあったのは、サロン・グッズ(一筆箋・絵葉書)と岡さんのエッセイ集「知らされない愛について」の売り上げがのびたこと。これは、南光龍平・仁子ご夫婦の販売力が大きく寄与しているのはいうまでもない。他には、サロングッズが徐々に浸透して、愛用者が増えてきていることもある。なかでも一筆箋はその最右翼。昨年のカーニバルで、お買い求めになった人が、歴史的炎暑のなか、今年もただ一筆箋だけのためにお越しいただいた。カーニバルで出会い、一筆箋でふれあう人がいる。「さろん亭」を出店してよかった。サロングッズを企画してほんとうによかった。

紅の魅力

この暑い八月のはじめの一日と終わりの二回にわけて行われた目黒区立美術館のワークショップに参加しました。

● 河合恵子

作る

つくる

創る

14

「色の博物誌―赤」という展覧会にちなみ自然から赤をとる、特に植物から赤色をひきだすという内容。はじめは山形県米沢市にある紅花資料館館長の鈴木孝男氏を講師としての紅染め。映画「おもひでぼろぼろ」にも登場した黄色い小さな紅花から本当に赤が取り出せるのか興味しんしん。六世紀半ばに作られた藤ノ木古墳からもこの花の花粉が見つかったとか。

あらかじめ文様を彫り込んだ板の上に木綿の布を置き、そこに咲き始めて三、四日の紅花の花をほぐしてすりこむ方法。そのままでは黄色ですが、それを水に浸し、そこに酢を加えると赤い文様が浮き出します。このとき少しオキシフルを垂らすといつそう鮮やか。江戸時代には摘んだ紅花を水に浸して揉み、日陰で風通しの良いところで発酵させてつくった紅花餅（はなもち）から紅を染めたそうで、この方法も試しましたが、紅花から黄色の成分の抜き去り具合によつて黄色、オレンジ、ピンク、真紅と様々な色に染まり、とても不思議です。韓紅花（からくれなゐ）はどの色かしらと思っている間に時間がたちました。

第二回は二日間にわたり、ウールの草木染を本格的に日本で始めた染織作家の寺西祐子氏の指導。蘇芳の芯材、西洋茜の根、コチニールという虫を乾燥したもの、ユーカリの葉、古木にで

きるウメノキゴケを発酵させたものを見ようばんで先に媒染したウールに浸したり、あるいは染色したのち、クロムや鉄で後染めしてより堅牢な色を作る。こちらは天秤ばかりを使って、さながら理科の実験ですが、自然の赤には様々な色が混じり、深みを感じます。



砂の山のおだやかな角度

手のひらに砂をにぎり、こぶし一つの高さから、静かに落とせば、そこに小さな砂の山が生まれる。それは、ほんとうに小さな山だが、それでも富士山と同じ形をしていて、なだらかな裾野(すその)は、手のひらほどの大きさに、こじんまりと広がる。

このような小さな山でさえ大きな山と同じおだやかな角度をもっている。信じられなければ、砂を手にとり、何度でも試してみよう。こぶし一つの高さから静かに落とせば、いつもと同じく変わらない、穏やかでつましい角度が、あなたの目の前に現れる。

これは、砂がもつ角度なのだ。砂の一粒ひとつぶには、どこにもその角度は現れていないが、手にとって静かに落とせば、かならず姿をみせる穏やかな自然な傾き。新たに落ちてくる砂の粒を、受け流すように自分にとりこんでいく、この巧みな角度を砂の山は知っている。

あなたと向かいあうとき、あなたの言葉と、あなたの息づかいが、そのままたちの中に降りそそぐように、私は、この砂の山のおだやかな傾きを保ちたい。たとえ、あなたの言葉が激しく、叫ぶような怒りと悲しみに満ちていても、この砂の山の穏やかな傾きを心に抱(いだ)くかぎり、私は私らしさを失わないままに、あなたを拒むことなく受けいれることができるだろう。

雪が降り積んでも、しなやかに雪を大地に返す樹の枝は、その角度を知っている。座っている石仏の肩から腕、そして手のひらにつながる流れにも、このおだやかな角度は現れる。教会のステンドグラスに描かれたイエスの腕に、招くような、砂の山のゆるやかな角度を見たことがある。

語り合うために丸く座るとき、ひとりひとりのさまざまな心の形は、かげろうのように浮び上がる。高く厚い壁のような形、あるいは、いまにも崩れ

そうに、かろうじて積み重なっている積木の形。星型のように鋭い剣を周囲に出している形があれば、誰かをひっかけるような鉤(かぎ)がぐるぐると回わっている形もある。丸い太陽のように燃えていたり、針金がつれたような迷い乱れた形が見えることもある。それぞれの心のかたちは、それぞれの性格や生い立ちによるものかもしれない。



ないが、向かいあううちに、自然に心の形は似てくるのだ。心は、たがいに響きあい、形は移ろうのである。

大勢のなかに、砂の山のおだやかな心の角度をもった人たちが数人座ることによって、あつまり全体の空気が変わっていく。高い壁のような硬さも、瓦礫(がれき)のように壊れそうな危うさも、剣のような鋭さも、太陽のような熱さも、すべて砂の山の傾きで受けとめてられていくうちに、安らぎを得て、心の結び目を解き、小さな砂の粒に戻っていく。気がつけばそれぞれの心が、おだやかな砂の山の形に近づいている。

誰かを受け入れるということは、自分を失うことではない。相手の怒りや悲しみに、私自身も巻き込まれ流されてしまうことではない。かといって、拒むことでも、隔たりをもつこともでもないという微妙な姿を、砂は、その角度を通して教えている。

その形を忘れかけたら、子どものころに遊んだ砂場に行き、砂を手にとつて、こぼし一つの高さから、しずかに砂を落としてみようと思う。(知)

アメリカ西海岸の旅行に参加して

田 辺 徳 孝

さて、私は今回アメリカは西海岸の研修旅行に参加し、すばらしい体験と思い出を作ることができました。詳しくは勝手ながら次号にでも投稿させていただきたいと思いますが、少し旅行中に印象深く感じたことをお話ししてみたいとおもいます。

今回、私は白杖を頼りにできるだけ単独歩行を試みたつもりでしたが、いざとなれば手引きに頼ることになってしまいました。でも、そのなかで私の気持ちを終始和ませてくれたのは、現地の方がたとのふれあいの中で、耳に飛びこんできた温かい言葉でした。

単語だけしかわかりませんでした、
「ウエルカム」とか
「ハワユ」といった言葉、また
「プリーズ」といって手をさしのべてくれた方も多数おられました。

また、現地の方たちの中にも日本語をしやべる方もたくさんいるとは聞いていましたが、対話の中で

「サンキュー」とお礼をいったところ、「どういたしまして」と返ってきた言葉には皆苦笑してたようです。

さて、今回初めての海外旅行、ジャンボジェットに乗ったことも初めて、カリフォルニア大学バークレー校の見学、おとぎの国デイズニールランド、ハリウッドの街ユニバーサルスタジオと、ほんとうにいい思い出と貴重な経験を得て帰途につきました。

また、この続きは思い出すままに次の機会に書いてみたいと思っています。

(墨字訳 石田 律)

朗読テープのご案内
山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙九八号の録音テープが出来ました。バックナンバーは三九号から、九八号の分があります。五〇号は五周年記念紙になつており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

又、絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)の朗読テープもあります。

いずれもご希望の方には、ダビングをします。富田までお申し出下さい。

(8) 〇六六九一一〇二八

●高齢者と在宅介護 12

井元 真澄

三、脳卒中による要介護高齢者への

援助課題(5)

前回より引き続き、調査結果について紹介していきます。

《研究の結果》

3. 在宅保健福祉サービスの認知・利用状況

今回は、脳卒中要介護高齢者九八名の在宅保健福祉サービスの認知・利用状況についてみていきます。サービスは、「ホームヘルパー」、「デイサービス」、「ショートステイ」、そして、訪問指導・訪問リハビリ等を合わせた「訪問保健サービス」、としています。

①ホームヘルパー

サービスを「現在利用している」人は、九八名中わずか五・一%となっています。サービスを「知らない」と答えた者は二九・六%と約三割で、「知っているが利用したことは

ない」が六五・三%となっています。

他のサービスに比べると、認知度は最も高くなっていますが、それでも約三割の人がホームヘルパーの存在を知らずにいることがわかります。

②デイサービス

「現在利用している」は六・一%、「以前利用したことがあるが、現在は利用していない」は四・一%で、両者を合わせた、デイサービス利用経験者は、全体の約一割との結果になります。サービスを「知らない」と答えた者は三六・七%、「知っているが利用したことはない」が五三・一%となっています。

③ショートステイ

ショートステイの利用経験のある者は一四・三%で、ホームヘルパー、デイサービスに比べると利用度はやや高くなっています。しかしながら、サービスを「知らない」と答えた者は四二・九%と、ヘルパー、デイに比べて認知度は低く、「知っているが利用したことはない」も四二・九%で、ヘルパー、デイに比べて低い結果となっています。

④訪問保健サービス

訪問保健サービスを「現在利用している」は一〇・二%、「以前利用したことがあるが、現在は利用していない」は五・一%となっており、利用経験のある者は両者合わせて約一五%と、他のサービスに比べて最も高くなっています。しかしながら、サービスを「知らない」と答えた者は四六・九%で半数近くあり、「知っているが利用したことはない」は三七・八%となっています。

「脳卒中が原因で在宅で要介護状態にある高齢者」といえば、これらのすべてのサービスにおいて対象者となりえます。しかしなが



ら、利用経験者が少ないだけでなく、サービスの存在を知らない人も多くいることがわか

ります。申請主義であるサービス利用の現状からすると、サービスを「知らない」人が多

いということは、非常に大きな問題であるといえます。

美智子のこんな話



岸田 美智子

外出介護の保障を更に求めていこう！
この間の大阪府との話し合いの報告

今年の春から夏にかけて大阪府とガイドヘルパーの適用を巡る話し合いを三度持ちました。この数年間、私たちは府に対して、施設では職員数も少なく障害者の個人的な外出が難しい状況を訴え、地域の障害者が外出する時に介護者が派遣されるガイドヘルパー制度を、施設障害者も使えるようにすることを求めてきました。そして、ようやく昨年夏の話合いで、府は「施設障害者

へのガイドヘルパーの適用を94年度から実施する」と約束してくれました。しかし、今春もまた実施が見送られ、そのことについてこの間、話し合いを重ねてきたのです。

まず、この春からガイドヘルパー適用が果たせなかった理由として、府は財政状況も厳しく府庁内部で「施設障害者の外出介護は施設が行うべき」「施設への適用は国に要望すべき課題」などの意見が出て、庁内での合意ができず実施できなかったことを謝罪しました。

これに対して、私たちの方からは、施設障害者の外出介護は施設にまかせて済む問題ではないことや、すべての施設障害者が外出したい時に外出できるようにしていくためには、ガイドヘルパー制度の利用がぜひとも必要であることを訴え、来年度からの実施を求めました。

これに対して府は、来年は知事選挙があるので予算組みは秋になるため制度の実施も秋になること、また療護施設の障害者の

みを対象にした介護料制度（大阪市の全身性介護制度のような制度）を検討していく予定であることを明らかにしました。これについて私たちの方からは、療護施設のみならず授産施設や更生施設でも外出介護が必要であり、入所施設全体を対象にしたガイドヘルパー制度の実施を求めていきました。

これらの話し合いを通じて府は、

①来年秋にできるだけ多くの入所施設を対象にしたガイドヘルプ事業をモデル的に実施するよう検討すること。

②制度を具体化していくにあたって私たちと引続き協議していくこと。

の二点を約束しました。

制度の実施はだいぶ先に延びてしまいましたが、引続き大阪府と粘り強く話し合いを積み重ね、すべての施設障害者が外出に使える介護制度を作らせていきたいと思います。今後も共に力を合わせてがんばりましょう。

海外から

本当に暑い日が続いています。

その後、お元気にお過ごしでいらっしゃいますか。お便りの返事が遅くなってすみません。こちらは、数日前に30ミリほどの雨が降りましたが、毎日37～9度以上の暑さが続いて多くの人達が疲れています

私の仕事は、印章業です。16年しています。韓国ではとても重要なものです。

一般的に印鑑は、とても重要に使用しています。もちろん、芸術的な部分も重要です。また、いろいろな社会活動でも必要なものです。しかし、今年からは、保険会社自動車の登録、販売会社等は、書類への捺印を廃止してサインで代替えになりました。

一部銀行業務では、通帳の開設を除外して捺印を廃止しました。

私の国では、多くの障害者たちが金銀宝石や、時計、印章、鍵、BUS票の販売等をして社会に参加していますが、このような印章使用の縮小で、私たちは難しい立場になってきます。それでも、私たちは、常に希望と勇気をもって生活しています。

努力をする人たちが、仕事を成しうと思っています。天も助けてくれると思っています。

サロンとサロン紙の活動は大きなものではないけれど、今後の発展があるグループと感じました。毎月のサロン紙を拝見して、参加者の熱意を感じます。同じ障害者として嬉しく思います。

また、私と文通希望の方がおられれば、私も喜んでさせていただきますので、よろ



1994年春の野遊会

しくお願いします。

これからも、私たち韓国と日本の障害者の発展のために、よろしくお願い申し上げます。では、お身体大切にお過ごし下さい
馬 泰 植
追伸、当会の1994年春の野遊会の写真同封します。



サロン隣組ニュース

■「サロン・淀川」でリフレッシュ

和田 保子

8月21日(日)に初めて「サロン・淀川」へ行きました。

ウエンター・レディさんのインドの話や日本での体験談等を聞きましたが、とても面白い方で楽しい時間を過ごしました。

まだ、慣れないので窪田さん、木谷さんには声かけられませんが、少々の緊張の中で(ほとんど家族だけの生活)、学生時代を思い出し、気持ちのリフレッシュをする事が出来ました。たまには違った所へ出かけるのも良いものだなー と思いました。

感謝します

カンパ、切手、はがき、飲料水、冊子、バザー用品々等、のご寄贈。

一筆箋、絵葉書等、お買い上げありがとうございます。お礼を申し上げます。

- 秋野富美子、旭 純子、安達尚子、植松菊雄、太田喜代子、岡 加寿子、柿岡 緑、河合恵子、北井シゲ子、小西京子、阪田富子、皿谷千秋、高尾澄男、手島八重子、富田万里子、西 和子、西村勇三、林 三起子、宮崎徹郎、八木千代、山本敏子、

○八月のカンパ 金五二、〇〇〇円

(匿名二名・氏名不詳多数名様)

お知らせ

「サロン・あべの」紙百号発行記念

サロン・あべの十月の出会い

『チンチン電車で行く、住吉・堺』

十月十五日(土)のサロン・あべのは、チンチン電車(阪堺電軌阪堺線)に乗って、「恵美須町」から「浜寺駅前」までを往復します。住吉から堺にかけての、歴史ある町並みを、車窓からお楽しみください。

※車椅子での乗降は、手伝っていただけませんが、車内では座席に座っていただく場合があります。



があります。また、身障者用トイレの設備は、駅および車内にはありません。

集合は、恵美須町駅に午後一時三十分。解散も、恵美須町駅で、午後四時三十分の予定です。定員は二十五名で、先着順に受け付けます。会費は、二千円です。

お申し込み・お問い合わせ先
☎〇六―六九一一―〇二八(富田慶子)

* * * * *

百号目前:十月十五日に百号が出ます。今一生懸命編集中です。ご期待ください。

「ピア大阪」のご案内

サロン5月の出会いで見学しました早川福祉会館内で、ピア大阪が下記の活動を始めました。

♥「ピアカウンセリング」

視覚・聴覚・肢体・精神等の障害を持つ方の自立に関する相談。日時=月~金10-15時 電話予約要

♥「自立生活体験」

自立生活体験室(洋室・和室)を利用して、自分自身のプログラムに応じた生活が体験出来る。

♥「浴室提供」

障害者が利用しやすい設備が整い、介助者と共に個人専用で1時間半利用出来る。

10-20時の間、予約制

上記ご利用のお問い合わせ先
自立生活支援センター・ピア大阪
〒546東住吉区南田辺1-9-28

早川福祉会館内
TEL 06-622-1180
FAX 06-622-0423

おもろい 姉ちゃん

田 淵 美登利

期待はずれた夏休み

みなさんは、同居されている方を除いて、自分の両親や兄弟姉妹と、どれくらいの割合で会われていますか？

こんごう寮の寮生さんも、毎週、隔週、月一回、様々です。

そして、多くの寮生さんは、春のゴールデンウィーク、お盆、お正月の二週間の定期帰省には、それぞれの家族のもとへ帰っていきます。

でも、様々な事情で家庭に帰れない寮生さんも、なかにはいます。

そして、そんな人たちにとって、定期帰省期間は、職員にゆっくり甘えられる大切な時間です。

ところが、それを楽しみにしていたTさん、同じ作業科の人が原因不明の高熱で入院してしまい、あまりかまってもらえず、すねて、

「ガオーツ」（彼女の泣き方）と泣くことの多い夏休みでした。



サロンの絵葉書

「花だより」と「出会いの風景」の二種類あります。

ちょっとした近況、お知らせや季節の「あいさつ」などにどうぞ。一セット五枚組¥一五〇—

編集後記

むかし、家康の忠臣本多重次が、息子を大切に育てよと、陣中から妻に書いたのが「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥せ」。いま、一番にお願いしたいひとと言「一筆啓上 火の用心 エディター泣かすな 原稿ほしい」。〆切日に全原稿が入稿してもらえれば……かなわぬ夢と承知しつつも、敢えて切なる願いを込めて「一筆啓上」。 (石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.99[`94. 9.17 発行] 定価¥100.
代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303. 電話06-621-4365
連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028
表題；斉藤孝文・筆
印刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL. 06-691-2365.